



秋まき小麦の赤さび病・赤かび病防除

1. 秋まき小麦の生育状況

生育は平年並で、茎数も平年並で推移しています（表1）。今後も生育状況を観察し、防除適期を逃さないよう努めましょう。

表1 5月15日現在のきたほなみの生育状況(普及センター本所作況調査より)

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	遅速	これまでの生育期節		
				起生期	幼穂形成期	止葉期
本年	34.5	1,584	+1	4月3日	4月30日	—
平年	31.8	1,715	-	3月30日	5月1日	5月26日
前年	35.3	1,670	+1	3月29日	4月29日	5月26日

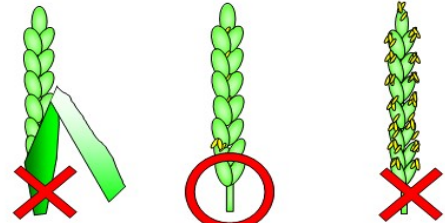
2. 赤さび病・赤かび病の防除について

(1) 赤さび病

止葉を含む上位2葉の発病を抑えることが重要です。赤さび病抵抗性が「やや強」以上の「ゆめちから」は、通常、1回目の赤かび病防除との同時防除で対応できます。

「きたほなみ」も抵抗性は「やや強」であるものの近年多発生となる場合があるため、ほ場での発生状況を確認し、適期防除に努めましょう。

十分に付着しない 開花始 散布適期 既に感染している 危険性あり



感染前の穂に薬剤を十分に付着させ保護することが重要！

図1 赤かび病1回目の防除適期

(2) 赤かび病

赤かび病の感染時期は開花時期です。防除を始める前に、小麦が出穂して「開花始（図1）」を迎えたことを必ず確認しましょう。

表2 赤さび病・赤かび病の防除体系例

※対象病害：●指導参考あり ○指導参考なし

防除時期	薬剤名	対象病害		倍率	系統名	使用回数
		赤さび	赤かび			
1 開花始	バラライカ水和剤	●	●	500	DMI・フタルイミド	2
2 ~7日後	ミラビスフロアブル	○	●	1,500	SDHI	2
3 ~7日後	プライア水和剤		●	1,000	※1	2

※1 プライア水和剤の系統名：ベンゾイミダゾール・N-フェニルカーバメート

※同系統の薬剤の連用は避けましょう。

※テブコナゾール（バラライカ水和剤、シルバキュアフロアブル）の使用回数は融雪後2回以内です。

※アブラムシ多発時は殺虫剤（例：ウララ DF4,000倍、モスピラン SL液剤4,000倍など）を使用しましょう。

※別紙フローチャートも参考にしてください。

農作業事故が増えています。適度に休息をとりながら作業しましょう！